

ドイツの祭りカーニバルについて

トリア大学留学レポート

岸上泰斗

日本でカーニバルというとブラジルのリオを思い出す人が多いでしょう。たくさんの人が仮装をしてパレードをしながらサンバを踊る姿をです。しかし、本来のカーニバルはカトリックなどキリスト教圏に見られる文化の事です。基本的には、復活祭のキリスト教暦において四旬節の前（2018年の場合は2月8日から2月13日）に行われます。日本語ではカーニバルは謝肉祭とも言われます。この語源は四旬節の始まる前日の日（灰の水曜日）にカーニバルが行われ、それは肉を断食する祭りの事を意味したからだそうです。キリスト教徒が多いヨーロッパでもカーニバルは大事な祭りで、多くの都市で、長いときには一週間ほど開催されます。様々な種類の仮装をした人々が台車に乗って音楽を流しながら歩いてきます。その様はパーティーをしているようで聞いている人も楽しくなります。

次にドイツのカーニバルについて少し話をします。ドイツのカーニバルは2月の初めごろから一週間かけて様々な場所で行われます。ドイツで有名な場所はケルンやデュッセルドルフです。ケルンのカーニバルはドイツ一有名なカーニバルであり、100万人の人々が訪れます。カーニバルのパレード中には「アラーフ」(Alaaf) という掛け声で溢れます。この掛け声はカーニバル特有のあいさつのようなものであり、あまり意味はありません。掛け声は地域によって変わります。また、お菓子がほしい場合には「カメレ」(Kamelle) という掛け声を出します。そうすると、パレードの屋台からお菓子が降ってきます。デュッセルドルフの掛け声は「ヘラオ」(Helau) と言います。これはトリアも同じです。加えて、トリアのあるラインラント地方では女性のカーニバル(Weiberfastnacht)が存在します。この日は女性が主導権を握る日とされており、女性は会社などで男性のネクタイを切り、そのお詫びとしてキスを贈るそうです。この起源は昔に女性たちが権力が集中する市庁舎などを占拠したことに由来し、それにならい今では男性の権力の象徴であるネクタイを切るようになったようです。

最後に、私が行ってきたトリアのカーニバルについて紹介したいと思います。トリアのカーニバルは、2月12日でした。ここらへんだと結構大きい規模らしく、一万人以上の観客が来ます。トリアのカーニバルの掛け声は「Helau」です。手を振りながらそれを言うと、いっぱいお菓子などが拾えました。パレードが通る道にはバリケードが置かれ、面白い仮装をした人で溢れかえっていました。その道を右の写真のように屋台に乗った人々などが通っていきます。特にこれは作りが丁寧で印象に残っています。上に乗っている人たちは軽快なポップを流しながら踊っていて、パーティーのようで見るだけで楽しかったです。

